

伊豆日日新聞

令和4年(2022年)5月5日 (木曜日)

「18歳から成人」と決まつてから初めての「こどもの日」(5月5日)を迎えた。すでに選挙権はあるのに、20歳になるまで飲酒や公営ギャンブルなど認められない。そんな“大人”と子どものはざまにいる高校生の活動に、最近1人の大人として感心した▼曰大三島高の生徒たちが、世界自然遺産に登録された徳之島(鹿児島県・奄美群島)の高校生と、昨年から交流を続いている。大型連休中に三島市の楽寿園で魅力発信イベントを開き、伝統芸能やコラボ商品販売などで取り組みを紹介した▼こ

松毛川

「の中に、海洋汚染として問題化しているプラスチックのチップでアクリセサリー(レジン)を作るコーナーがあつた。高校生が小学生らを丁寧に指導した。このワークショップの「本当の意味」は、多くの子どもたちに伝わったはずだ▼同校の生徒たちがNPO法人グランドワーク三島が進める松毛川の「三島桜の里」整備に参加した。シャベルで穴を掘つていた女子生徒は「花が咲くのが楽しみ」と笑顔を見せた▼社会的意義ある行動をしている高校生にとって法律的な成人の枠組みは無意味だろう。「こどもの日」に思う。悲惨な事故から国際紛争まで、大人が自戒し対処すべきことはあまたある。